

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590600070		
法人名	社会福祉法人ひまわり会		
事業所名	永寿園グループホームひむかてらす	ユニット名	1ユニット
所在地	日向市富高6957番地1		
自己評価作成日	平成26年5月27日	評価結果市町村受理日	平成26年8月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kanistrue&liexosvCd=4590600070-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成26年6月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の前が公園になっており、春は桜、秋は彼岸花が咲き、晴れた日の散歩等で四季を身近に感じている。また、事業所前の道路が通学路になっており、毎朝小学生と老人クラブの方々のあいさつの声が聞こえてくる。ひむかてらすのご利用者もその輪に加えていただこうと、平成25年度より朝の立ち番を週2回程行うようにした。約3名のご利用者が20分ほどの時間、あいさつをしながら小学校への見送りをしている。最近では、老人クラブの方々から声をかけられたり、小学生のほうからあいさつしてくれるようになってきた。何より立ち番がご利用者の楽しみになっている。平成25年度中に介護理念を「明るい笑顔と気持ちのよいあいさつであなたの気持ちに寄りそいます」と作成し、平成26年度の目標とした。これからもご利用者の気持ちに寄りそい、安全に安心に暮らしていただき、地域に根ざす事業所にしていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者と職員は、ゆったりとした穏やかな空間を共有している。利用者と職員は、老人会の小学生の登校見守り立番やいきいきサロン、地域行事に積極的に参加したり、隣接する公園に日常的に散歩に行き、公園を訪れた方と交流している。調理や掃除専門の職員と介護担当職員を配置し、利用者の個別ニーズに対応している。研修会出席や資格取得による職員の資質の向上を支援し、管理者は職員と年4回の個人面談を行い、就業環境の整備に努め、人間関係が良好で働きやすい職場となっている。職員と共に作成した介護理念を共有し、利用者の地域との関わりを大切にし、利用者の気持ちに寄り添った支援を実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年理念を作成し、今年度の目標を理念「明るい笑顔と気持ちのよいあいさつであなたの気持ちに寄りそいます」とたてた。	管理者と職員で話し合い、ホーム立ち上げ時の理念を見直し、現状にあった理念に作り変えている。ミーティングで職員全体で話し合い、理念の共有をしている。自分たちで作成した理念を常に念頭におき、日々のケアの実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の方に会ったときはあいさつを行い、地区の活動・行事に積極的に参加している。3名のご利用者が週2回ほど、地区の老人クラブの方々と小学生の見送りをしている。最近では小学生からあいさつしてくれるようになってきた。また、月1回の掃除に職員が参加している。	高校生や読み聞かせの方、理・美容師の来訪を受け入れている。老人会と一緒に小学校の登校見守り立番に参加したり、地区行事やいきいきサロンにも参加し、積極的に地域と交流している。隣接する公園に訪れた地域住民と交流し、ホームのトイレを開放している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いきいきサロンに5名のご利用者が参加している。以前の職場の同僚がいたり、出身地が一緒ということで会話がはずんでいる。認知症になっても普通に会話できることが、理解されてきたように感じる。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催している。ご家族からは、事故はもちろん、ヒヤリハット報告等のささいなことでも家族に知らせてほしいとの意見があった。	運営推進会議には、家族や地域住民が多数出席し、評価の取組やホームの状況報告と意見交換が行われている。出された意見には速やかに対応し、サービス向上を図っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日向市健康福祉部高齢者あんしん課の担当者に、運営推進会議のメンバーとして参加してもらい、情報やアドバイスをいただいている。また、サービスの状況やご利用者の状況を随時報告している。	市の担当者が運営推進会議のメンバーとして会議に出席している。ホームの実情やケアサービスの取組を伝えたり、相談するなど、協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の弊害について職員間で研修を行っている。帰宅願望のあるご利用者と一緒に散歩をし、その方の好きなことを一緒に行うようにしている。言葉の拘束には気をつけている。	勉強会で研修を行い、管理者と職員は身体拘束について理解し、認識を共有している。利用者の外出願望を制限することなく寄り添い、一緒に歩き、安全面に配慮した対応を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修を行っている。また、外部の研修会に参加し、伝達研修を行っている。職員が虐待への意識を高めることで十分注意し、虐待防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	1ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、制度を利用されているご利用者はいないが、権利擁護について研修会を行っている。今後、権利擁護を必要とするご利用者がいた場合は、情報を提供したいと思う。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、ご家族に分かりやすく説明し、疑問点の確認やいつでも質問いただけるような関係づくりをしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にご利用者の状況を伝え、要望や希望をお聞きするようにしている。また、運営推進会議へのご家族の参加も多く、活発な意見交換ができており、可能なことから反映させている。		運営推進会議に複数の家族が出席し、意見交換の場となっている。出された意見には速やかに対応し、運営に反映させている。来訪時や電話で家族の意見を聞いたり、利用者の意見や要望を表出できるよう働きかけを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングと夜間研修を行い、サービスに対する意見や提案をしてもらっている。また、年4回、職員を対象とした面談を行い、働きやすい職場づくりを心がけている。		管理者は、年4回の職員面接、毎月のミーティングと夜間勉強会を職員の意見や提案を聞く機会とし、職員の意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度はじめに面談を行い、目標を立てるようにしている。また、資格取得のための支援を行ったり、職場環境の整備等を行っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	永寿園全体研修や各部署での研修を定期的に行い、レポートを提出している。また、参加出来なかった職員にも資料等で伝達し、レポートを提出している。外部の研修にも積極的に参加している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や県北のグループホームの研修に参加し、他のグループホームのサービス内容などについて情報収集を行い、サービスの質の向上につなげている。			

自己	外部	項目	自己評価	1ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入所時は、安心して生活できるよう細かい声かけを行い、ご本人の気持ちに寄りそい、顔なじみになるように心がけている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新規契約時にご家族の希望、要望、不安に思われていること等を聞き、グループホームで生活することで、安心してもらうよう説明している。さまざまな機会にご家族とコミュニケーションを図っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者の要望と状態を確認し、ご家族の意見をお聞きし、サービスを行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の出来ることは継続して行っていたり、また、出来そうなことを一緒に行いながら、ADLの維持につなげている。優しい声かけを心がけ、同じ目線で話すようにしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会にいつでも来てもらえるようにしている。また、状態の報告や帰省の希望などの訴え時は連絡を行い、協力をいただいている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と一緒に美容室へ行かれたり、外食されたりしている。ご家族が遠くから帰省された際は、日中より外出し、夕食までご家族と過ごされたりしている。	関係継続を家族に働きかけ、外出や外食、自宅への帰宅を支援している。ホームだよりで個別報告を行い、遠方の家族と電話で話ができるよう支援している。なじみの場所にドライブに出掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	歩行訓練されるご利用者が他の方を誘い、一緒に外周されるようになった。体操やゲームなど、一緒に活動していただくように声をかけている。また、洗濯物たたみを一緒に行ったりしている。			

自己	外部	項目	自己評価	1ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されているご利用者の家族に、電話で様子を伺ったり、お見舞いに行ったりしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の思いや要望を各担当職員を中心にお聞きし、状況の把握を行い、ご家族とも相談しながら思いを叶えられるように支援している。	担当の職員を中心に、利用者の思いや意向の把握に努めている。入浴の時間を大切に、ゆっくり会話を楽しんでもらいながら入浴してもらう中で、利用者の思いや意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	若いころの写真を持ってきていただき、その頃の話をお聞きし、その方をより深く知ることを行っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月1回のミーティングで、ご利用者の状態を報告し、情報を共有する。また、職員との連絡ノートを活用し、情報を共有している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の希望や要望を聞いた上で職員がアセスメントを行い、介護計画を作成し、ミーティングで話し合い、ご家族に説明して介護計画を実施している。3ヶ月に1回モニタリングを行っている。	日々の介護記録や家族の要望・関係者の情報を介護計画に取り入れている。今年度から毎月モニタリングを行うよう変更し、実施している。変化が生じた場合は随時見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日記録をし、月1回のミーティング時に月のまとめと介護計画書のモニタリングを行いながら、介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体である特養施設での盆踊りに参加したり、デイサービスでの舞踊などのボランティア訪問の見学に出かけている。昨年より、法人内グループホーム、小規模多機能ホームと一緒に合同遠足を行うようにした。			

宮崎県日向市 永寿園グループホームひむかてらす(1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	1ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の美容室に月2回訪問してもらっている。また、理・美容に行きたい方は職員と一緒に外出している。3月には地元消防団に、避難訓練の様子を見ていただいた。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の先生から月1回往診に来ていただいている。1名のご利用者が今年より、主治医を協力医に変更してもよいとのこと変更している。	協力医の往診が毎月1回ある。家族による受診対応や職員の受診同行など柔軟に対応し、適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、ご利用者のことで何か気づいたり、気になることがあれば看護職員に伝え、相談している。夜間の緊急時にも連絡を取り、助言をもらっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご利用者の情報の提供を行っている。入院中はお見舞いに行き、状態の報告を聞いている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期についての説明と希望を聞いているが、健康状態が不安な時は、その都度ご家族と話し合うようにしている。	契約時に重度化について説明し、ホームで看取りを希望する場合、「重度化した場合における対応に係る指針」に対する同意書の作成と、ホームでできること、できないことを説明し、方針を共有している。入院になった場合も家族と十分話し合い、ホームでの生活が再開できるよう配慮している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置や初期対応の訓練を定期的に行い、実践につなげるようにしている。AEDも設置しており、使用法の研修も行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回の訓練を行っている。地元消防団に訓練の様子をみてもらい助言をいただいた。	排煙設備を設置している。避難訓練は台所や隣接地からの火災想定や夜間想定訓練、夜間通報訓練、津波や土砂災害訓練と災害に合わせての避難訓練を計画している。地域との協力体制も築いている。	避難場所として地域連携のマニュアル作成や非常食等を準備している。ホームの立地場所に急勾配があることも考慮し、手すりなどを取り付けて安全を確保した対策を期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	1ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、一人ひとりに合った言葉かけを行うようにしている。特に、排泄時の声かけや入浴時は、プライバシーを損なわないように注意している。		職員はプライバシーに配慮した声かけ、誘導を行い、利用者に対し年長者として敬意を払い、人格を尊重した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	更衣時に洋服を選んでもらったり、入浴の準備を職員と一緒にしている。また、担当職員を中心に、ご本人の思いや希望を聞き、実現できるようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のご利用者の状態を把握し、希望に添えるように支援しているが、ご本人、ご家族、職員体制の都合・天候などの状況によっては実施できないこともある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近くの美容室を定期的にご利用されているご利用者、ご家族と一緒に美容室に行かれたり、月2回、地元の美容室の訪問を利用されている方がいる。また、季節の変り目、行事前に洋服の買い物に行かれています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	竹の子、エンドウ豆など、季節に応じてご利用者が皮むきを手伝っている。配膳時には料理を盛り付けてもらったり、テーブル拭き、食器洗いなどをご利用者が行っている。		職員は調理の準備や後片付けなど、利用者の持っている能力を生かしながら共に行い、一緒に食事をしている。ユニットで外食に行ったり、家族との外食を支援するなど、食事を楽しむことができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の食事の摂取量を毎日チェックしている。水分摂取量の少ないご利用者には、好きな飲み物を確認、準備し、少しでも多く飲んでもらうよう工夫している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを自分で十分できないご利用者には、状態に応じて介助を行っている。また、自立されているご利用者へは、声かけを行うようしている。			

宮崎県日向市 永寿園グループホームひむかてらす(1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	1ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターン把握のため、チェック表へ記入し、必要な利用者には、声かけや洗浄を行っている。夜間はトイレ、ポータブルトイレ、尿パット交換など、個々に合わせた支援を行っている。	排尿チェック表を活用し、声かけや誘導を行い、トイレでの排せつを支援している。夜間はトイレ、ポータブルトイレ、パットやおむつ交換などの対応、パンツやパット、紙パンツなど、一人ひとりに合わせた対応をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂取することで、便秘することが少なくなった。また、便秘時は、散歩や体操で身体を動かしたり、腹部マッサージを行ったりしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者の希望・状態に応じて行っている。入浴日でないときでもご利用者の希望により入ってもらっている。入浴時は、自分の下着を洗ったり、身体の洗える部分は洗っていたり、個々に応じて行っている。湯船につかった時は、ゆっくり会話できる時間として大切にしている。	一日おきの入浴となっているが、希望があれば入浴できる体制にある。ゆっくり入浴してもらい、職員と利用者のコミュニケーションの場としても大切にしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者によっては部屋で過ごされる方、部屋とホールを行ったり来たりされる方がいる。可能な限り日中は起きていただき、夜はぐっすり休んでいただけるようにしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の服薬状況をまとめ、いつでも確認できるようにしている。薬が変更になった時は、看護職員が職員に伝えるように申し送りや連絡ノートを活用している。誤薬が起こらないよう2人で確認し、服薬後も袋を確認している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じて、配膳の手伝い、洗濯物たたみ、テーブル拭きなどを行っている。また、誕生日は本人の希望に添えるよう外食したり、食べたいものを作ってお祝いしたりしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	落ち着かれない様子の時などは、公園へ散歩にいったりして気分転換を図っている。また、美容室やお墓参り、出身地区の敬老会へと外出している。ご家族が遠方のため、お墓参りに同行できないご利用者には、職員と数名のご利用者が同行し、墓参りの後に温泉に行ったこともある。	ホームのウッドデッキや隣接する公園を日常的な散歩に利用している。ドライブや地域行事への参加など、利用者の外出を支援している。本人の希望があれば、家族へ働きかけて、家族と利用者が外食や自宅で過ごすことなどを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	1ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を所持している方はいないが、買物時、美容室でお金を払ってもらっている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	県外にいるご家族より定期的に電話がかかってくるのを楽しみにされている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音の大きさ、照明、温度はご利用者の希望や状況を観察して調整している。玄関の花、飾りも季節感を取り入れるようにしている。特に貼り絵はご利用者が熱心に行い、玄関に貼ることでやる気につながっている。		食卓テーブルとソファセットが置かれた共用空間は、利用者が思い思いにゆっくり、居心地よく過ごせるよう工夫されている。装飾は華美にならず、季節感に配慮した花や作品が展示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの居場所ができているように感じる。気の合ったご利用者同士、そばでゆっくり話したり、時には離れたソファで休んだりしている。また、隣のユニットへ気分転換に行ったり、歩行訓練に行ったりしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	たんす、毛布などを自宅より持って来られ、ご家族の写真を飾っている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室が分からなくなるご利用者に、大きく書いた名前を貼ったり、トイレも分かりやすいよう表示している。			